研究の現場から

令和四年度「道科研」研究活動方針
創立者が託した課題に向き合う

道徳科学研究所 所長
犬飼孝夫

「重点三分野」

令和三年に改編された「道徳科学研究所」(以下、「道科研」)では、研究活動の「重点三分野」を以下のように定めました。

(1) 新たな時代の倫理道徳のあり方を探究し、人類社会における諸課題の道徳的解決に資する研究

(2) 家庭・学校・社会における道徳の教育・学習・実践の充実に資する研究

(3) 創立者・廣池千九郎の事跡と思想の研究、および最高道徳論とその教育の深化・発展に資する研究

この「重点三分野」を「モラルサイエンス研究推進プロジェクト」「道徳教育研究推進プロジェクト」「モラロジー研究推進プロジェクト」という三つの「研究推進プロジェクト」が担い、研究を進めています。

同時に、わが国の国家伝統を主たる課題とする「伝統文化研究プロジェクト」と、歴史認識問題に関する調査・研究に取り組む「歴史研究プロジェクト」を進めています。

これらの「プロジェクト」が定例研究会を企画・開催することで、さまざまな専門性を有する研究者のシナジー(相乗効果)が引き出され、研究活動の活性化につながっています。

財団の教育活動に資する研究を

さて、今年度の道科研では、「『道徳科学の論文』第三緒言」(新版『道徳科学の論文』①序一二七～一三九頁)の第二条で示されている三十四事項に及ぶ「引き続き研究を必要とする諸項目」について、具体的にどのように取り組んでいくか、改めて検討を進めていきたいと思います。

この三十四事項を見ると、廣池千九郎が道徳という視点から、自然と人間、社会と人間、心と身体の関係性を重視していたことが読み取れます。また、これらの事項では「相互関係の研究」「徹底的研究」「具体的方法の研究」という言葉が多用されています。道科研では、創立者が後世に託した研究課題を、現代の最先端の科学的知見でしっかりと受け止めたいと思います。同時にまた、価値観が多様化し混迷の度を増す現代社会において「変えていくべき社会規範」「時代を越えて尊重すべき道徳原理」について、学術的側面から発信していきたいと思います。

道科研は、財団の教育部門との協働をより一層推進し、研究的視点から教育活動に参画していきます。今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。